

ゆきちゃんに 心臓移植を!



募金目標金額

2億9,000万円

ホームページ <http://yukichan-sukuukai.com/>

ゆきちゃんを救う会

で 検索



趣意書

福島県在住の祐綺(ゆき)ちゃんは生後3カ月の時に心不全になり、福島県立医科大学附属病院にドクターヘリで緊急搬送されました。左心室の動きが悪く、『心筋炎』か『心筋症』の診断を受けました。その後内科的治療(点滴)で、一時は回復傾向に向かいましたが、また心臓の動きが悪くなってしまい、医師からは、これ以上の治療は見込めなく、心臓移植しかないとの報告を受け、ご両親は心臓移植を決断しました。

7月に大阪府にある国立循環器病研究センターに転院しました。医師から『拡張型心筋症』と診断され、8月に国内での移植登録を済ませ、内科的治療を続けていましたが、回復傾向が見られず、小児用の補助人工心臓をつける手術を受けました。

補助人工心臓は長期になるとリスクが上がり、脳出血や脳梗塞の危険性が隣り合わせです。国内では2010年より小児からの脳死臓器移植が可能になりましたが、国内で

の心臓移植はごく僅かで海外での心臓移植に頼るしかない状況です。

幸いにも多くの先生方のご尽力をいただき、アメリカのコロンビア大学病院でゆきちゃんを受入れてくれることが決まりました。しかし、海外での渡航移植は公的な補償がされないため、医療費などを含めた多額の費用が必要で、とても一人で負担できる金額ではありません。

そこで私たちは、懸命に看病する両親の姿、自宅でゆきちゃんの帰りを待つ家族の姿、そして何より病気と闘っているゆきちゃんをなんとかとも助けたいと思い「ゆきちゃんを救う会」を結成し、海外での心臓移植のための募金活動を進めることを決定致しました。ゆきちゃんを救う為に私たちは皆様のご厚意に甘えるしかありません。何卒この状況をご理解いただき、皆様の温かいご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

『ゆきちゃんを救う会』一同

●募金のお振込み先

金融機関名	口座番号	口座名義
ゆうちょ銀行(ゆうちょ銀行内)	記号 18240 番号 38312861	ユキちゃんヲスクウカイ (ゆきちゃんを救う会)
ゆうちょ銀行(他銀行から)	八二八店 普通 3831286	
みずほ銀行	郡山市店 普通 1324316	
東北労働金庫	石川支店 普通 6575540	
東邦銀行	棚倉支店 普通 611186	
大東銀行	棚倉支店 普通 3000563	
福島銀行	棚倉支店 普通 1039978	
白河信用金庫	棚倉支店 普通 1166351	
東西しらかわ農業協同組合	棚倉支店 普通 0037097	

※当会事務局から戸別訪問してお金を集めたり、電話で振り込みを依頼することはありませんので、ご注意ください。

お問い合わせ

ゆきちゃんを救う会事務局 (10:00~15:00)

〒963-6131 福島県東白川郡棚倉町大字棚倉字新町 32 番地 2

電話 / FAX 0247-57-5971

両親からのメッセージ

この度は、私たちの娘、祐綺(ゆき)を救うために多くの方々のご尽力を賜り、本当にありがとうございます。そして何より、大切な時間を割いて「ゆきちゃんを救う会」を結成してくださいました有志の皆様、心から感謝を申し上げます。

祐綺は2016年1月に産まれました。元気な産声をあげ、兄弟たちと成長していく姿が楽しみな日々でした。生後3カ月の時、予防接種を受けた次の日に顔色が真っ白になり、苦しそうな呼吸をしていました。すぐに病院で受診すると、福島県立医科大学附属病院へ搬送され、ICUでの治療が始まりました。左心室が大きくなって血液を循環させるポンプの機能が弱っている状態でした。「心筋炎か心筋症」と診断を受けました。その後内科的治療で一時は回復し一般病棟へ移ったものの、また悪化してしまい、ICUへと戻ってしまいました。良くなっている時は、きっと大丈夫。退院して家族みんなで暮らせる日が来る!と希望を胸に抱いていましたが、悪くなる時は、祐綺に明日が来ないかもしれない…と弱気になり不安な毎日を過ごしていました。

私たちは4年前のことが頭をよぎりました。第一子となる長男は、生後7カ月の時に劇症型心筋炎になりました。その後回復し退院したものの、心筋炎後心筋症で1歳4カ月の時に私たちの元から旅立ちました。たった1年4ヵ月しか一緒にいれなかったこと、日に日に弱っていく姿を見て何もしてあげられなかったこと、我が子を失った悲しみと後悔はこの先も一生忘れることはありません。

祐綺が心臓の病気と言われた時、この子も私たちの元からいなくなってしまうのではないかという不安でいっぱいでした。医師から心臓移植しか道はないと言われ、祐綺を失いたくない、何としても助けたい、その一心でした。

大阪府の病院へ転院後、拡張型心筋症の診断を受け、小児用補助人工心臓(EXCOR)を装着し、国内での移植を待機していました。小児用補助人工心臓は、血栓による脳梗塞や血栓を防ぐための薬による出血のリスクが高く、常に命の危険と隣り合わせです。また、装着が長期になるにつれリスクが高くなることも分かっています。

国内での小児の心臓移植は2010年に法改正されましたが、6歳以下の心臓移植は2016年9月までに4例と限りなく少ないのが現状です。国内で待機し続けることも考えましたが、小児用補助人工心臓を着けている祐綺の状態を考えると少しでも早く心臓移植を受けさせてあげたいと思い、海外での移植を決意しました。

そのような中、多くの先生方のお力添えでアメリカのコロンビア大学病院で受け入れていただけることになりました。

しかし、海外での移植は莫大な費用が必要で、とても私たち家族だけではまかないきれず、皆様へご協力をお願いして助けていただくしかありません。

祐綺は毎日たくさんの刺激を受け、成長しています。これから先の未来も娘に生きてほしい、そして家族一緒に暮らせる日がくることを願っています。大変勝手なお願いであることは重々承知しておりますが、娘に生きるチャンスをください。

どうか皆様の温かいご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

平成28年11月15日

父 中川西 純一

母 中川西 かおり

